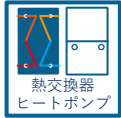
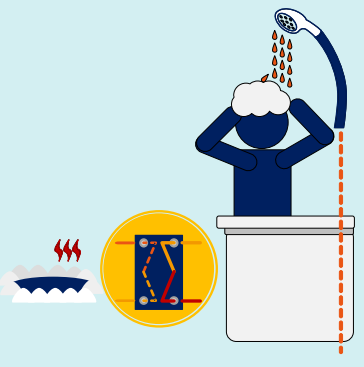


熱川プリンスホテル



温泉熱の給湯利用

熱交換器を使って、温泉熱（浴用利用の余剰分）で上水をあたため、給湯に活用しています。



概要

東伊豆町で自噴している熱川温泉は源泉温度が高いことが特徴で、水(井戸水)で薄めることで適正温度にした後に、各浴場設備にて提供している。「出来る限り温泉を薄めず、お客様に温泉をより濃く味わってほしい」という思いから、補助金を活用して熱回収ユニット(熱交換器含む)の導入を行い、温泉熱の給湯利用を行った。

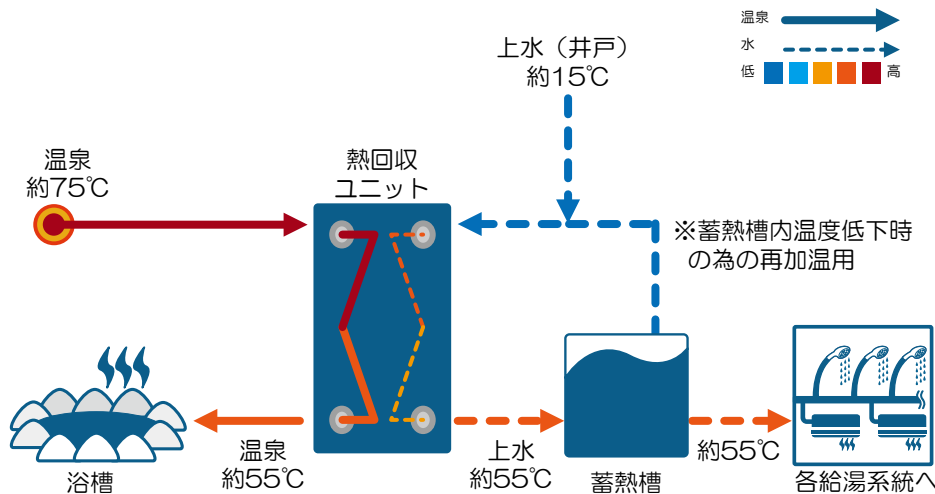
余剰熱を給湯に活用することで源泉への加水量を削減できるだけでなく、上水加熱のためのエネルギーコストの削減、並びにCO₂排出量の削減に成功した。

事業者名	(株)ニュー熱川プリンスホテル
所在地	静岡県賀茂郡東伊豆町
泉質	ナトリウム-塩化物・硫酸塩温泉
温泉温度	約75℃
熱利用温度	約55℃
稼働開始	2020年
総事業費	約995万円（一部補助金あり）

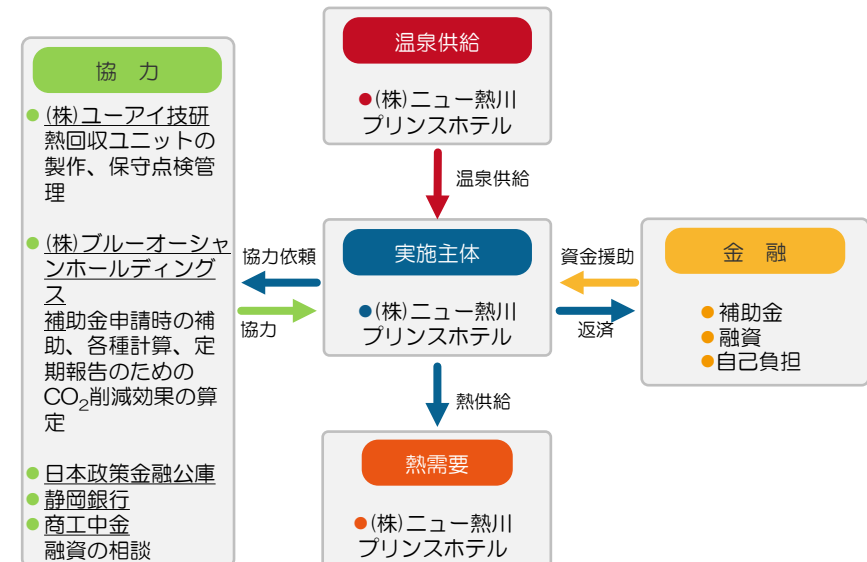


熱回収ユニット

主な温泉熱利用方法のシステム



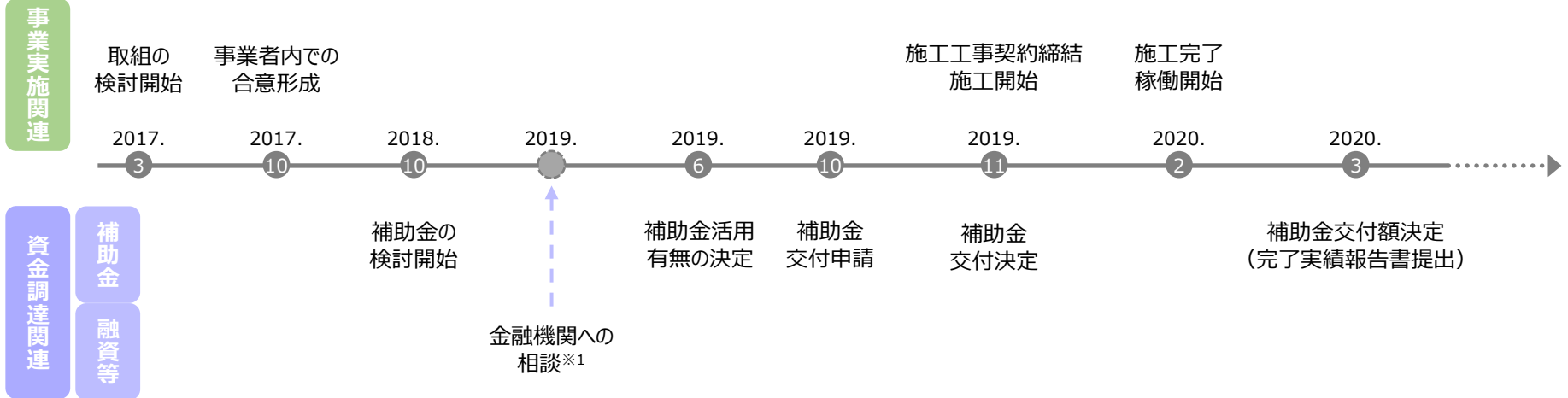
実施体制



熱川プリンスホテル



事業検討の流れ



※1:融資の相談はホテルの運営等の相談に合わせて随時行っていたため、具体的な時期は不明

事業実施の際の課題と解決策

課題発生時期	課題	解決策
温泉熱利用設備導入時	・源泉温度が高いため熱交換器に温泉スケールが溜まりやすくこまめな洗浄が必要だった	・温泉成分に強いチタン製熱交換器を導入した
補助金利用検討時	・補助金の審査要件が不明確だった	— (特になし)
補助金申請時	・提出書類が多く、申請が煩雑だった ・何を提出すれば良いか不明確だった ・容易に準備できない提出書類があった ・熱量やCO ₂ 排出量の計算は専門分野ではないため難しく、ハードルが高く感じた	・補助金の書類申請に関して、コンサル会社に協力を依頼した
補助金採択後(事業実施中)	・3年間行う年1回の定期報告のための準備作業の負担が、当初想定していたよりも大きかった	— (特になし)

主な効果



【その他の効果】

- ・温泉温度の調整を目的とした温泉への加水を減らすことに成功し、「温泉の成分をより濃く味わってほしい」という思いの実現につながった
- ・チタン製熱交換器を導入したことにより、温泉スケールを洗浄する必要がなくなった(温泉槽に設置している既存の熱交換器は半年に1回程度の洗浄が必要である)

※: CO₂排出量削減効果とエネルギーコスト削減効果は、ヒアリング結果に基づく